

---

# 俺と刑事と赤ちゃんと

国士無双

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

俺と刑事と赤ちゃんと

### 【Zマーク】

Z6269M

### 【作者名】

国士無双

### 【あらすじ】

部屋に忍び込んだ赤ちゃんと何かす”い話。

「では、話を進めようか」

「はい」

「君は、この子を誘拐して、性的暴行をしようとしたんだな？」  
「違います！何度も言つたら分かるんですか！僕は小さい子には興味はありませんし、そんな特殊な性癖は持ち合わせてませんっ！」

「……君ねえ、そんなに必死になつたら逆に怪しまれるよ。ネタはもう上がつてんだからさあ。早く吐いちまいな、楽になるぜえ」

いつの時代の警察官だよ、と思ったが口にしないでおこう。

大体、その子が僕の部屋に居なかつたら無実の罪を着せられずに済んだのに…

これだから小さい子は嫌いなんだ。

「じゃ、裁判にでもかけてみるんだな。今日のところは釈放だが、次何かをやらかしたらタダじや済まさんぞ。じゃあな」

「はあ…すいません…」

ギイイ…と重そうな扉が閉まつた。

僕も早く出てしまおう。

\*

\*

…………

田の前には散らかつた六畳間。  
と、子供。

「どうひりとあるで？」

「あーーー起きたーーおはよーい」「じやこましゅ」

「…おせよつ、じあこます、…じかうともど?」

「えー? わたしー? わたしはさあおん!」「すえ、3歳でしゅ」祇園袖

「…えらいねー。自己紹介じつも。…親御さんは?」

「おやー! お? 何それー」

「お母さんは? お父さんは?」

「お母さんもお父さんもおじいじ。だから、お家をぬけだしてきたの」

「おおー! …じつやとんだじやじや馬姫だぜ。まき」おひびく  
「…よし、いい機会だ。脳内メモリを買い換えよ!」

「處理速度が追いつかねえよ。

メモリが少ないのか。

よし、いい機会だ。脳内メモリを買い換えよ!」

「お家の電話番号は?」

「「1」ー「1」ー「なん」ー「せまひさんでしゅ」

「くーくー」

55 - 42831ヒ...

プルルル…プルルル…

ガチャ

「あ、もしもし、水門ですけど、実は、お宅の娘さんを…」みと

『おかげになつた電話番号は、現在、使われておりません。もう一  
度確認して、再度、おかげ直し下れ』あとかくにん

度確認して、再度、おかげ直し下れ』たま

…騙された…

…というより、たかが3才児が家の電話番号を知っている訳が無いじ  
やないか。

はあ 徒勞とろう…

電話帳はつと…

俺は本棚に向かい、電話帳を探す。

あつた。

1年ほど更新してない電話帳。

祇園<sup>きおん</sup>…ぎ… 一件しかねえ。

分かりやすつ！

53 - 7284 :

全然違うじやねえか！

プルルル…プルルル…

ガチャ

「あ、もしもし、水門<sup>みと</sup>ですけど、実は、お宅の娘さんを…」  
『え！？ 梢<sup>じょう</sup>が！？ 父さん！早く警察に連絡を！』

『おう！待つてろ！』

『え！？ ちょ、ちょっと！』

『電話番号<sup>でんわばんご</sup>の保存をしどかないと… 53 - 7322… あら、意外と近場ねえ』

「ちょ！ 奥さん！ それ誤解だつて！」

『ふふふ…觀念<sup>かんねん</sup>しなさいこの誘拐犯め！ 年貢<sup>ねんぐ</sup>の納め時よ！』

「住民税<sup>じゅうみんぜい</sup>もろもろはちゃんと払つてます！だから通報はやめッ！』

『もう遅いわよ。父さんが連絡取つちゃつたから』

「俺の人生<sup>が</sup>…」

『母さん！ 警察<sup>けいさつ</sup>つて何番だつたつけか？』

『もう！ 118番よ！ 父さん、バカになつちやつたんだから…』

「お前もバカだよ！ 110だよ！ 夫婦揃つて漫才<sup>まんざい</sup>でもやつてんのか！」

『ふふ… 父さん！ 110だつて！ 親切な誘拐犯さん<sup>ゆうかいはん</sup>が教えてくれたわ～！』

しまつた！ ついツツコミ本能<sup>ほんのう</sup>が…

『じゃあね、親切な誘拐犯さん<sup>ゆうかいはん</sup>』

ガチャ

ツー…ツー…

畜生<sup>ちくしやう</sup>…切られた！

しかもあのババア、最高に性質が悪いよ！

ああ、これで俺の人生はドロドロ間違いなしだ。

「だいじょうぶでしゅか？おかおがあおいでしゅよ？」

「お前のせいだよ！」

「ふわつ！びっくりしました…」

「何でこんな所にいるんだよ！お前のせいで俺の人生は崩れちまつたよ！どうしてくれんだよ！」

俺は咄嗟に胸ぐらを掴んでしまった。

それが、仇となつたらしい。

最悪なタイミングで、警察前衛部隊が強行突破を決行した。

「手をあげろ！然もないと……お前、誘拐だけが目的じゃなかつたのか！？」

「ちちち違います！事の成り行きで！」

「お前がそうなるように成り行かしたんだろうが！早く来い！」

「嫌です！僕は犯罪なんて犯してません！」

「重犯罪だよ！十二分に！そういうのは後から大人の人とやらせて

あげるから！早く来い！」

「嫌ですうううう！」

「だああ！しつこい！おいお前等！強引に連れていけ！重症だ！」

『アイアイサー…』

「ほら、飲め」

「何を…んくつ！」

「あと30分もすれば眠くなるだろ？」

「睡眠薬？」

「そうだ。さすがにまだ眠くはならんか…」

「流石にそれは…ん？何だ？急に眠気が…」

「どんだけ即効性なんだよ…」

\*

\*

カン…カン…

「ん…」

「田は覚めたか」

「ええ…一応は。最悪の田覚めですが」

「それは皮肉か？」

「半分は。というか、ここのどこですか？」

「一般的には取調室と言われる取調室と言う所だ

「それって取調室なんじゃないですか…精神的に元気が無いんです

から突っ込ませないで下さいよ…」

「じゃあ、突っ込む元気が戻ってきたといふで、取調べを始めよう

か

「だから元気は無いんですって…絶対嫌がらせじゃないですか」

「ぶっちゃけ、君はさつきの子に×××をしようとしたんだね？」

「ぶ、ぶっちゃけ過ぎですよ…しかもしようとしてません…」

「じゃあ何で誘拐したんだ？」

「しようとした訳じゃないですし、してもないです」

「ほう、その心は？」

「朝起きたら、部屋に居ました」

「…警察ナメンのも大概にしろよ」「！」

「これが事実なんだから仕様がないじゃないですか。最新の鑑識の技術で何とかならないんですか？もしそれで無実が立証されたら慰謝料一千万円はくだらないですよ

「もし、本当にそうだったならな。それくらいは出してやるわ」

「約束ですよ」

「ああ、分かった。男に一言は無い」

「警部！大変です！只今、彼の無実が立証されました！」

「何だと？」

「鑑識の調査結果によると、女の子の入室時間が8時で彼の起床時間より早かつたということです…」

「…そんなバカな…」

「おっさん、約束は約束だぜ？」

「契約破棄は…出来ないか？」

「…出来るわけねーだろ！俺がどんだけ濡れ衣着せられたかわかつてんのか！？ちゃんと払えよな！」

「わ、分かった。部下に振込を命じておく。口座番号は？」

「114-3991だ。覚えとけよ？」

「ああ。バッヂリだ」

「怪しさ臭ブンブンなんだが…」

「じゃ、釈放つてことで。じゃな」

「くそっ！若造相手に一杯食わされた！」

…お前の思い込みのせいだらうが…

\*

「ふう…いつぶりの太陽の日差しだ…？」

無事事件を解決して、やっと外に出られた。

「学校もサボっちゃったし、あと半日何するかな」

…寝よう。

いろいろ大変で6時間も寝てないからな…疲れだし。

そうだな。それが一番いい。

勝手に納得し、俺は家路についた。

「あーあ、今日は大変だった…」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6269m/>

---

俺と刑事と赤ちゃんと

2010年10月10日22時39分発行